

定例法話を開催

どなたでも
どうぞ

安楽寺だより



荒山先生のお話

安楽寺で行なう年間行事は、春秋の永代経法要と 11 月の報恩講のほか、毎月 13 日には、安楽寺本堂で布教師の先生をお招きして、法話の会(定例法話)をいたしております。

紙面内容

- 2面 聖人のご生涯(吉水教団への弾圧)
- 3面 九月に「感謝会法要」開催
- 4面 仏教豆知識(御文)

六月十三日には、昭和区の恵林寺前住職の荒山先生にお話ししていただきました。

荒山先生は今年八十歳になられますが、お元気に三十年来安楽寺にお出かけ頂いております。

今回は私たち門徒が日頃おつとめする正信偈の最初の段の訓読から始められ、「私たちは『無量光』から続く十二の光に照らされています。正信偈をお称えするのは大切な行であり、本を持たず、文字を見ないで称えるのは、よくありません。」と、お話しされます。そして、正信偈の後におつとめする和讃は、「一行一行称える中で意味がわかって、自分の身に引き当てて考えさせていただくことができます。」

『無碍光佛のみことには 未来の有情を利せんとて・・』・信心の智慧にいらてこそ 仏報報する身とはなれ』

人間として生まれてきた私たちが、このよきな和讃をいただくことによって、自分は何のために生まれてきたかを自然に気づかせてくれます。また、縁あってともに生活する人を尊重する大切さに気づかされます」と、仏恩に感謝するところをお話しされました。

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良
名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇
電話 〇五二(八四一)二六〇六



法話を聴聞する皆様
(安楽寺本堂)

午後、正信偈の『本師源空明仏教 憐愍善悪凡夫人』のお話をされました。

「源空(法然上人)は、親鸞聖人が初めてお念仏の教えに出会うことができた先生です。聖人は直接教えを乞う中で、自分がどういう人間であるかを知らされました。」

『善悪凡夫人』とは、善い行ないをするとは有頂天になる・自慢話をする・苦勞話をする。反対に悪い行ないをするとは卑下する。善悪ともに罪深い行ないです。このような自分の姿を憐(あわれむ)愍(かなしむ)と言って聖人は重くいただかれました。」

参詣された皆様は、自分の身に受け止めながら真剣に聴聞されました。

親鸞聖人のご生涯

その四 法然上人吉水教団への弾圧

親鸞聖人は、「雑行を捨てて本願に帰す」と申され、二十年に及ぶ比叡山での修行（自力聖道門）を捨て、ひたすら本願念仏に生きる（他力浄土門の）生活を始められました。

聖人が六年にわたり過ごされた法然上人の吉水教団には、末法濁世に悩み苦しみながら生きる人々が、真実の生き方を求めて集まっていた。それまでの仏教が見捨ててきた一般民衆はもちろん、貴族・武士・僧侶たちが身分や職業・性別をこえて専修念仏の教えに共感していたのです。

源氏と平氏の争いに表されているように、貴族の世の中から武士の世の中に変わろうとしている混乱の時代です。人々はその日を生きていることに精一杯で、精進努力してほとけの悟りを得ることは、ほとんど不可能なことでした。

それまでの仏教にとって専修念仏は秩序を乱す邪教のようなものでした。念仏者の中には、何をしても救われると、平気で悪事を働く者もいて、念仏弾圧の機運が次第に高まってきました。

延暦寺による念仏禁止の訴えに、法然上人は門弟たちを戒める「七ヶ条の制誡」を作り、門弟たちに署名させました。奈良の興福寺も朝廷に念仏停止を強く迫りましたが、擁護する貴族たちの上奏で処罰を免れました。

『主上臣下、法に背き義に違し、忿りを成し怨を結ぶ』

ところが、門弟たちが催した念仏会に後鳥羽院の女房たち（鈴虫・松虫）が参加したことから、院の怒りをもってしまったのです。

ついに承元元年二月、専修念仏停止が決定され、四人が死罪、八人が流罪になりました。

聖人のご生涯を表した『御伝鈔』には、『諸寺の釈門、教に昏くらくして、真仮の門戸を知らず。洛都の儒林、行に迷うて邪正の道路を弁（わきま）うることなし』『主上臣下、法に背き義に違し、忿（いかり）を成し怨（あだ）を結ぶ。』と、述べられています。聖人の怒りがどれ程であったかを知ることができます。

聖人も僧の身分を奪われ、藤井善信の名で越後の国（今の新潟県）に流されました。土佐の国（高知県）に流された法然上人とは、その後二度と会うことができませんでした。



法然上人と親鸞聖人

瑞穂区仏教会主催 感謝会法要のご案内

来る九月十六日(日)に、紫雲殿新瑞齋場(左下地図)において、感謝会法要が開催されます。

日頃の生活の中で大切に使用したものの・愛着のある品物は、捨てがたいものです。皆様のご自宅などにこうした物がございましたら、ぜひお持ちください。

法要式壇にご安置して、瑞穂区仏教会の住職一同で、感謝(おしょうぬき)法要を厳修いたします。ぜひご参加ください。
(志納料は2千円)

注・可燃物だけをお願いします。

掛け軸、位牌、仏具、お経本、写真、お札、お守り、人形、ぬいぐるみ、その他

御遠忌「懇志金」協力ありがとうございました

ご門徒の皆様には、平成十七年(2005年)より、宗祖親鸞聖人御遠忌法要「懇志金」をお願いしてまいりました。昨年東本願寺御影堂に於いて法要が厳修され、

今年六月までに、安楽寺御依頼額313万727円を完納致すことができました。

長年に亘りましてご協力いただきましたこと、心よりお礼申し上げます。



日時	九月十六日(日)
2時	受付
3時	始経
3時30分	交通安全講話
4時	感謝会法要 始経

安楽寺法要日程



安楽寺入口の提灯

七月十三日(金) 定例法話 午前・午後
昭和区 八神正信師

八月 五日(日) 孟蘭盆会法要
午前10時・午後一時
(初盆法要は八月四日) 住職

九月十三日(木) 秋季永代経法要
午前10時・午後一時半
稲沢市 榎山正樹師

十月十三日(土) 定例法話 午前10時
坊守

十一月十二日(月) 午後一時半・四時
十三日(火) 午前10時・午後一時半
報恩講法要

昭和区 荒山 修師

十二月十三日(木) 定例法話 午前・午後
昭和区 八神正信師

仏教豆知識

第十一回



御文（おふみ）

「御文」とは、浄土真宗本願寺第八世になられる蓮如上人が、お念仏のおこころを広く伝えて下さったお手紙であります。蓮如上人の八十五年のご生涯には、数多くの「御文」を全国に出され、お弟子たちを通してご門徒の皆様にお伝えされました。

蓮如上人の生きられた戦国時代は、戦乱だけではなく、飢餓や疫病・洪水などの大災害が頻繁におこり、殺伐とした世相の中で、無常感がただよっていました。

上人は、宗祖親鸞聖人によって確かめられたお念仏の救いを、戦乱と飢餓に苦しむ民衆のただ中であって、『御同朋、御同行』と呼びかけながら、「御文」によって信心を勧められ、広く深くそしてやさしく伝えられました。

「御文」は、二百五十通以上知られていま

すが、その後五帖八十通の「御文」として編集され、現代の私たちが拝読することができます。

「御文」は、親鸞聖人の教えを誰にでもわかるように平易な文章で、しかも「一心一向ニ阿弥陀如来ヲタノメ・・・」と、私たちを目覚めさせる阿弥陀如来のおこころを簡潔に勧められたのです。

「御文」拝読の時は、参詣者は頭を下げ、謹んで拝聴するのが、作法になっています。



蓮如上人御影道中一東本願寺～福井別院

昨年三月の東日本大震災と福島原発の爆発と放射能漏れによる被害者の皆様方は、私たちの想像を超える現実の中で生活しておられます。

先月十六日、野田総理大臣は、「安全が確認できたので、国民の生活を守るため・・・」と福井県にある大飯原発再稼働を決めました。七割を超える国民が安全性に不安を持ち、廃棄物の処分方法も全く見通せないなかでの再稼働は、「私が責任を持ちます」（首相）と言われても、信頼に値しないのでは、と思います。福島の皆様の声を真摯に聞いてから判断すべきではないでしょうか。